■70□

モダニズム建築を誇りに

プラザ佐治の景観を活かす会

（鳥取市佐治町）

山村のモダニズム建築として注目されている鳥取市佐治町加瀬木の「プラザ佐治」の魅力や価値を掘り起こす活動を精力的に展開している。7月22日には設計した島根県出身の建築家、安田臣氏（1911～77年）について語るシンポジウムを開き、プラザ佐治の文化財、観光資源としての価値をアピールする。

プラザ佐治は豪雪山村開発総合センターとして1971年に完成。鉄筋コンクリート3階建てで、翌年完成した役場棟（2階建て）とともに安田氏が設計した。宿泊施設や結婚式場、図書室、食堂などを備え、住民の交流拠点や議場などに活用されてきたが、2004年の鳥取市との合併後は使用されていない。

景観を活かす会は同市出身の建築家、謡口志保さん（名古屋渋ビル研究会）の活動に賛同した田中精夫会長(71)ら地元有志約10人で昨年3月に結成後、第1回シンポジウムを開催し、ガイドブックや小学生向け紙芝居を作成した。

昨年7月に開かれたシンポジウムでプラザ佐治を見学する参加者たち

今年は7月22日の第2回シンポジウムをはじめ、9月2日に北栄町出身のサウンドクリエーター、井谷優太さんのコンサート、11月には佐治町出身で東京・八芳園初代オーナーの長谷敏司氏を顕彰する先人フォーラムを計画。昨年、今年と2年続けて県の令和新時代創造県民運動推進補助金を活用し、事業を行う。

近代建築の記録・保存活動をしているドコモモ・ジャパンは、プラザ佐治を22年度の「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定。田中会長は「プラザ佐治は都会の雰囲気を味わえるモダニズム建築。住民が集まり、語り合うコミュニケーションの場だった。地元はこの建物を誇りたい」と魅力を語る。

（C）新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます